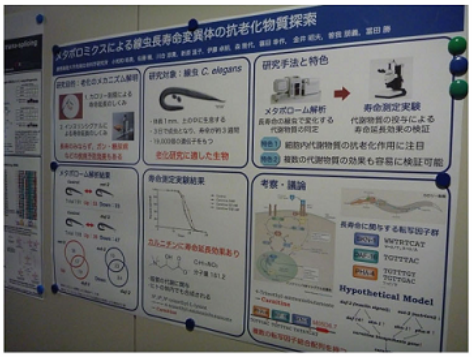
鶴岡キャンパス研修レポート　　医学研究科修士課程１年　小室美紗

平成２２年１０月２８日～２９日、山形県鶴岡市にある慶應義塾大学先端生命科学研究所において大学院GP医学部・薬学部合同IAB研修が行われました。東京から医学研究科修士課程６名、薬学研究科修士課程５名、教員３名の計１４名が参加し、鶴岡キャンパスの学生や教員と研究成果発表、意見交換をしました。

初日は冨田所長によるIABの紹介とメタボロームキャンパスツアーから始まりました。キャンパスは新しく、機器の多さに比べて人口密度が非常に低いことが信濃町キャンパスと大きく違い印象的でした。またバイオキャンプなどといった、科学への興味を引き出すことを目的としたプログラムや研究者を支援する設備も充実していて、研究だけでなく教育や研究しやすい環境づくりにも力を注いでいる点がいくつも見受けられました。通路のポスターは興味深いものばかりで、熟読する時間が無かったことが非常に残念でした。

メタボローム解析機器の多さに驚きました



通路にはポスターがずらりと並びます

２日間にわたって医学研究科、薬学研究科、そしてIABの教員・学生が研究発表を行いました。薬学研究科の学生の発表は、領域外である私でも理解できるような丁寧な説明で、他領域の理解を深めることができました。また同じ医学研究科である学生の発表は、聞き慣れた言葉や手法である分より深く聞き入ることができ、自身の研究へのヒントを得られました。そして何よりIABの学生の発表にはただひたすら圧倒されました。まずプレゼンテーションスキルの高さが際立っており、堂々と発表されていた学生が実は学部生だと後で知り非常に驚きました。また、研究のアプローチも私たち医学研究科とは全く異なりコンピューターを使ったシミュレーションなどといった独特の研究方法で、非常に面白い発表でした。IABの学生はみな自身の研究に関する知識が深く、関心が強いといった印象を受けました。

この研修を通して他学部・他領域の同じ世代の研究者と交流を深めることによって、自身の研究への意欲をより高めることができました。特にIABの学生の方々は研究に対する熱意であったり、創意工夫であったりと見習うべき点が多く、特に自主性を持って研究に取り組んでいく必要性に気付かされました。また他学部の研究を知ることによって、改めて自分は医学研究科なのだなと強く実感しました。医学研究科は医療に反映できる研究を主として行っています。そのことは研究室に籠って実験している時にはあまり意識することはありません。今回の研修は、そういった自身の研究やアイデンティティを再確認する良いきっかけとなりました。今後はこの体験をぜひ活かして、今回発表された学生の方々に負けないような研究・学生生活を送っていきたいと思います。